

## 書道の魅力を伝えたい

中学校のとき、「書の甲子園<sup>さくひんしゅう</sup>」の作品集をみました。そこに、川口高校の書道部の先ぱいの作品がのっていました。それまで、書道はお手本どおりに書かなければならないと思っていたのですが、その作品はちがっていました。とても、かづよくて、迫力<sup>はくりょく</sup>がありました。今までの書道のイメージがかわりました。そして、この先ぱいがいる書道部に入りたいと思い、川口高校に入学しました。

書道部に入ってから、私はものすごくかわったと思います。中学のころは、自分の意見をあまり言いませんでした。でも、書道の先生に「自分の意見を言わないと人につたわらないよ」と言われました。それで、勇気<sup>ゆうき</sup>を出して自分の意見を言ってみました。そのとき、みんなはきちんと受け止めてくれたんです。それから、私は自分の意見が言えるようになりました。私たちはパフォーマンス書道もやっています。多くの人<sup>きょうりょく</sup>が協力して一つの作品の作るので、意見を言うことはとても大切です。パフォーマンス書道のけいけんから、自分の意見をはっきり言えば分かり合えるということを学びました。

私は毎日のれんしゅうで気がついたことや先生のことばをノートに書いています。もう7冊になりました。3年生の夏休み、その中に「自分を素直<sup>すなお</sup>にさらけ出す。ありのままを感じる!」と書きました。そのころ、私はパフォーマンス書道や他の作品が、思うように書けなくてくるしんでいました。いらいらして、人に八つ当たり<sup>はちつあたり</sup>していました。そのとき先生から「うまくできないと思わないで、なぜできないのか、ぶんせき<sup>ぶんせき</sup>するといいよ」と言われました。それで「どうやったらうまく書けるか」と考えました。すると、思ったような字が書けるようになりました。このけいけんから、くるしいときも考え方をかえることで、かいけつできるということに気がつきました。くるしかったけど、失敗<sup>しっばい</sup>は成功<sup>せいこう</sup>のもとですね。

母は「あいかは、もし書道部に入っていなかったら、ひきこもりになっていたかもしれないね」と言います。私もそう思います。人と話したりすることが苦手だったので、書道部がなかったら、学校に行かなかったかもしれません。私にとって書道は生活の一部、というより、人生です。私の夢は筆<sup>ふで</sup>を作る職人<sup>しよくにん</sup>になることです。職人<sup>しよくにん</sup>になるためには、勉強するお金がいります。だから、高校を卒業したら書道用品<sup>ようひん</sup>の会社で働くことにしました。今までいろいろな筆をつかってみて、筆の材料<sup>ざいりょう</sup>によって、書いた字の感じがちがうことにきょうみを持ちました。いつか、自分で作ってみたいです。

この3年間、書道部でただ書道のぎじゅつをみがいただけではありません。礼儀作法<sup>れいぎさほう</sup>やせいしんてきな強さも身につけました。これらのことは、社会に出た後もやくにたつと思います。これからも、失敗をバネにして進んで行きたいです。

Expressions

自分を素直すなおにさらけ出す。ありのままを感じる! : I' ve got to show myself just as I am, and feel things as they are!

人に八つ当たりしてました : be taking out my irritation on others

ぶんせきする : figure out

ひきこもり (ひきこもる?) : shut myself up in my room and stopped going to school

ひきこもり : people who refuse to leave their room, and isolate themselves from society in their homes for a long period of time. A type of anxiety disorders.

礼儀作法れいぎさほう : the etiquette

せいしんてきな強さ : mental strength

失敗をバネにして : taking my failure as a spring board